2020-2

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		タケノコ採りに向かう途中の山林内でクマの攻撃を受け、重傷。
発生日	年月日	令和2年5月27日
	時刻	13:20頃
	天候	雨
発生場所	住所	大仙市協和船沢
	山/里の別	山
	環境	現場の状況から、事故発生地点は国道から直線約170mの山林内の作業道上と推測。事故発生地点の作業道はカーブしており、作業道脇はササや草本が密生している（写真）。
被害者	年齢・性別	76歳・男性
	行動目的	タケノコ採り
	行動人数	1人
	クマ対策	不明（未聴取）
	被害状況	重傷（鼻骨および上下顎骨骨折、右前腕腱切断）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	前掌幅9.5cm
事故の状況		被害者は国道から作業道に少し入った地点に車を停め、タケノコ採りのため山林に入った。単独・徒歩で奥に進んでいたところクマによる攻撃を受けた。自力で国道まで戻り、国道脇に駐車していた車に助けを求めた。
考察		作業道脇の植生が密生していたこと、作業道がカーブしていたことから見通しが効かず、出会い頭にクマと遭遇したと推測される。クマの足跡は事故発生地点より山側のみにあり、攻撃後は被害者を追いかけること無く山に戻っていることからも、クマの防衛目的の攻撃であったと考えられる。出会い頭の遭遇を予防する措置をとっていれば避けられた可能性のある事故。
今後の事故防止に向けて		通常のクマとの遭遇防止策 ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和2年度2件目（2人目）の事故

2020-3

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		水口の確認のため山林に入ったところ、クマの攻撃を受け重傷。
発生日	年月日	令和2年6月21日
	時刻	17:00頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	北秋田市阿仁萱草
	山/里の別	山
	環境	事故発生地点は国道下のカルバートを集落側から山林側（写真手前から奥）に抜けた地点。山林内はササやミズなどの下層植生が密生。
被害者	年齢・性別	74歳・男性
	行動目的	水口の確認
	行動人数	1人
	クマ対策	なし（普段山奥へ山菜採りに行く際は鈴をつけて行くが、今回は自宅から近いこともあり、つけていなかった）
	被害状況	重傷（右手首粉砕骨折、額と足に軽いひっかき傷）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独（成獣）
	その他	
事故の状況		被害者は単独・徒歩で水口の確認に向かい、カルバートをくぐった途端にクマと遭遇し攻撃を受けた。クマの攻撃を腕で防ぎつつ、腰に下げていたナタを抜いてクマを切りつけた。クマは山側に去り、被害者は自力で帰宅した。
考察		被害者の証言と、クマの攻撃が執拗でないことから、出会い頭の事故でありクマの防衛目的の攻撃と考えられる。出会い頭の遭遇を予防する措置をとっていれば避けられた可能性のある事故。事故発生地点付近は国道の交通量が多く、人の気配にクマが気付きづらいと推測されるため、より大きな音や声を出すなど、一層の注意が必要である。
今後の事故防止に向けて		通常のクマとの遭遇防止策 ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和2年度3件目（3人目）の事故

2020-4

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		高山植物盗掘防止パトロール中に子連れのクマの攻撃を受け、軽傷。
発生日	年月日	令和2年7月13日
	時刻	9:25頃
	天候	霧雨、ガス
発生場所	住所	仙北市田沢湖　駒ヶ岳登山道
	山/里の別	山
	環境	事故発生地点は駒ヶ岳八合目の登山道入口から直線で約310mの旧登山道上。 沢の片側は砂地の急斜面、もう一方は濃いササやぶ。事故発生地点は沢がややカーブしている場所。
被害者	年齢・性別	Ａ：69歳・男性、 Ｂ：72歳・男性
	行動目的	高山植物盗掘防止パトロール
	行動人数	2人
	クマ対策	クマ鈴（鈴をザックにつけていたが、霧雨のためその上からザックカバーをかけており、鈴が鳴らない状態であった）
	被害状況	軽傷（Ａ：両腕・左臀部に咬傷、 Ｂ：左足・左耳・額に咬傷）
加害個体	頭数	1頭（攻撃をしたのは母グマのみ）
	構成	親子（当歳子1頭連れ）
	その他	
事故の状況		被害者2名が旧登山道のカーブを曲がったところ、10m弱ほどの距離に親子グマがいた。先頭のＡ氏は両腕で攻撃を防ぎながらストックでクマを叩いたところ、クマは後ろのB氏へ向かい、攻撃。その後クマはササやぶに逃げていった。この間に子グマは見えなくなっていた。
考察		沢筋でやや音が聞こえにくい状況であったこと、鈴が鳴っていなかったこと、ささやぶで見通しが悪かったことで、互いに気付かず至近距離で親子グマに遭遇したことが事故の原因であり、クマの攻撃の目的は子グマを守るためであったと考えられる。音を出して人間の存在をアピールしていれば避けられた可能性のある事故。
今後の事故防止に向けて		通常のクマとの遭遇防止策 ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和2年度4件目（4人目・5人目）の事故

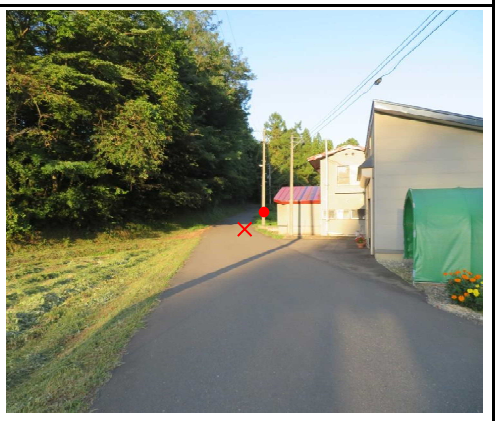
2020-5

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		畑の草取り中に後ろからクマにぶつかられ、軽傷。
発生日	年月日	令和2年7月16日
	時刻	16:40頃
	天候	くもり
発生場所	住所	東成瀬村岩井川
	山/里の別	里
	環境	事故発生地点は段々畑の端で、トマトハウスと豆の陰になっている箇所（写真、赤矢印）。近くの林分（写真手前側）からは直線で70mの地点で、その間は畑であり見通しが良い。この奥は2mほど低い位置にもう一枚の畑がある。
被害者	年齢・性別	90歳・女性
	行動目的	畑の草取り
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
	被害状況	軽傷（左肩に爪によるケガのほか、一段下の畑に落下した際に背中を痛めた）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	前掌幅9.5cm
事故の状況		被害者がしゃがんで（写真手前側を背にして）草取りをしていたところ、後ろからクマにぶつかられ、一段下の畑に転がり落ちた。クマはそのまま逃走した。
考察		明るい時間帯にクマが開けた畑に出てきた理由は不明だが、残っていた足跡からクマは小走りだったと推察され、山際で作業をしていた人間に驚いたか、大型のオスに追われるなどの何らかの理由があり、急いで移動していた可能性が考えられた。また、被害者の位置はトマトハウスと豆の陰であり、クマが被害者を認識したのはぶつかる直前だったと推測される。背後から攻撃したという形にはなったが、クマの移動経路上に被害者が偶然居合わせたために起きた事故と推測され、クマが確信犯的に突進・攻撃したというものではなく、再発の危険性は低いと考えられる。一方で、偶然性が高く予防の難しかった事故と考えられる。
今後の事故防止に向けて		予防しづらい事故ではあるが、人の気配があればクマが移動経路を変えたかもしれない。農作業中も腰に携帯ラジオをつけるなどして、人の居場所が分かるようにしておくことは有効である可能性が考えられる。
その他		令和2年度5件目（6人目）の事故

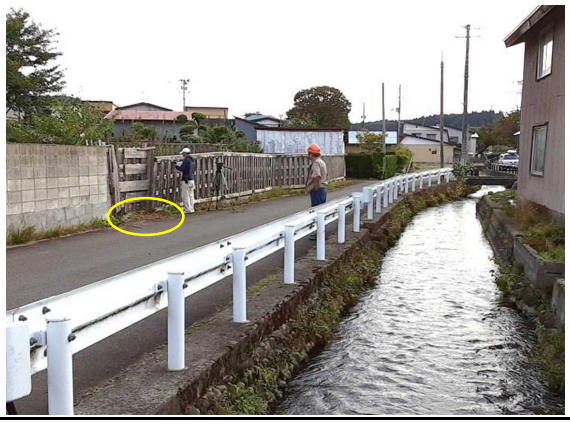
2020-6

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		自転車で下校途中にクマと遭遇し、すれ違いざまにひっかかれ軽傷。
発生日	年月日	令和2年8月29日
	時刻	17:30頃
	天候	くもり
発生場所	住所	鹿角市花輪字下モ館
	山/里の別	里
	環境	事故発生地点（×）は集落内の道路上。被害者は写真手前から奥に向かって自転車を走らせていた。写真は被害者が「黒い動物」に気付いた地点から撮影。「黒い動物」が出てきた地点（赤丸）は、道路左右に林が迫り、薄暗い。写真左手前は耕作放棄地で、事故当時は草丈が高かった。 
被害者	年齢・性別	17歳・男性
	行動目的	下校中
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
	被害状況	軽傷（左膝に爪によるケガのほか、転倒した際に左ひじをすりむいた）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	なし（普段はスピーカーで音楽を鳴らしながら走行しているが、この日はスピーカーのバッテリーが切れていた）
事故の状況		被害者が自転車走行中、前方に黒い動物を確認。夏場のスラリとした体型のクマを犬と思いそのまま進行したところ、すれ違いざまに膝をひっかかれた。被害者はその場に転倒。クマは耕作放棄地の藪の中へ走り去った。
考察		クマが道路に出てきてから接触するまでは数秒だったことから、クマが被害者に気付いたときには既に至近距離だった可能性がある。転倒した被害者に対してさらなる攻撃を加えることなく立ち去っていることからも、クマ自身の防衛目的の攻撃であったと考えられる。至近距離で遭遇しないための通常の対策をしていれば、避けられた可能性のある事故。なお、当該地点付近は事故の2週間ほど前にもクマの目撃情報があった。そのような場所では、スマホで音楽をかける、自転車のベルを鳴らすなど、人の存在をアピールしながら走行すること、（交通事故防止の観点からも）見通しの悪い場所ではスピードを落とすことが重要である。
今後の事故防止に向けて		・通常のクマとの遭遇防止策（音出しにより人の存在をアピールする） ・現在日本には野良犬はほぼいないことを生徒児童に伝え、「黒い動物」を犬と誤認しないよう注意喚起を図る
その他		令和2年度6件目（7人目）の事故

2020-7

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		クリ拾い後、徒歩で帰宅中にクマの攻撃を受け、重傷。1週間後死亡。
発生日	年月日	令和2年10月7日
	時刻	12:09頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	藤里町藤琴字藤琴
	山/里の別	里
	環境	事故発生地点は集落内の道路上。道路上に残された水の跡から、クマは道路脇の水路から出てきたと考えられる。丸印は被害者が倒れていた箇所。 
被害者	年齢・性別	83歳・女性
	行動目的	クリ拾い後、帰宅途中
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
	被害状況	死亡（頭蓋骨骨折）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	
事故の状況		被害者が徒歩で帰宅中、道路脇の水路から出てきたクマの攻撃を受けたと考えられる。物音を聞いた住民がすぐ現場を確認したが、クマは既に立ち去った後であった。
考察		事故は一瞬であったと推測されること、被害者の持ち物が奪われていないこと、すぐに逃走していることから、積極的な理由（人間を捕食対象と認識している、持ち物を狙っているなど）での攻撃ではなく、クマ自身の防衛のための攻撃であったと推測される。人の接近が遠くからでも分かるよう、音を出す対策をとっていれば事故を避けられたかもしれないが、当該箇所はクマが頻繁に出没する環境ではなく、日常的に遭遇対策をとるような場所ではなかった。また、痕跡から、クマは河川敷を通過して集落内に侵入したと考えられるが、河川敷の藪をすべて刈り払うのは現実的ではない。予防の難しかった事故。
今後の事故防止に向けて		・集落周辺の捕獲圧を高め、クマが集落内に迷い込む確率を下げる ・万が一攻撃を受けた場合の致命傷を避けるために、頭や首を守る防御姿勢を普及する
その他		令和2年度7件目（8人目）の事故